団体詳細

Members

古賀晶子（代表）・川崎莉音（Co-Founder）・江森百花（Co-Founder）・山口万瑛（コーポレートチーム長）・川口陽菜乃（PR チーム長）・伊藤りん（メンタリングチーム長）・上野悠（政策提言チーム長）・大森菜月（ライターチーム長）・東谷そら（コンテンツチーム長）・田代美智華（ファンドレイザー）・竹内のぞみ・加藤ゆり野・水庫郁実・小針諄也・白倉正博・小倉美紗希・出石琴美・田代悠・神永佳南・武功翼・江上愛歌・倉田真祐子・安原千尋・田村遙香・伊坂有未・山田詩子・谷口史恩・加藤咲穂・森原ソフィア遥

https://yourchoiceproject.com/

@YourChoice_ycp

info@yourchoiceproject.com

@YourChoice_ycp

公式 HP ▼

公式 X ▼

特定非営利活動法人

#YourChoiceProject

2024年度ご助成元

上野千鶴子基金・樫の芽会・ソーシャルジャスティス基金・Soil・パブリック・リソース財団

#寄付する

あなたの想いが、高校生のチカラになる

#YourChoiceProject の活動は、応援してくださる皆さまの寄付で成り立っています。
「女子だから」「遠いから」「私にはそんなことできない」……
地方女子の前にそびえる見えない壁を壊し、地方女子が選べる未来が
広がるように、あなたの力を貸してください。一緒に、全ての
女子学生が自分の進路を自分で決められる世界を作りませんか。
あなたの寄付が、その実現の大きな力となります。

寄付はこちらから ▼

#YourChoiceProject

Annual Report 2024

2024年度　年次活動報告書

特定非営利活動法人

#YourChoiceProject

代表挨拶 ・ 2024年度の活動をふりかえって

日頃より当法人に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。
2021 年秋にスタートした当団体の活動は、今年、4 年目を迎えました。
2 つの大規模調査に加え、当団体の活動の 1 つの集大成とも言える書籍の出版など、
活動規模を拡大させ、大きな飛躍ともいえる成果を挙げた 1 年になりました。

さて、当団体の活動は今、大きな変革期を迎えております。
今年 4 月より新代表には古賀晶子が就任し、
旧代表である川崎莉音、江森百花は Co-Founder として引き続き団体に関わってまいります。
まずは新代表と Co-Founder の 3 名より、今年度の活動を振り返りご挨拶申し上げます。

代表　古賀晶子

2025 年 4 月より代表に就任いたしました、古賀晶子と申します。
この度、初めての代表交代という節目にあたり、これまで積み重ねてきた想いと歩みを大切にしながら、新たな責任を引き継ぐこととなりました。
私は福岡出身で、地方に暮らす女子高校生が進路選択の場面でさまざまな制約や見えづらい障壁に直面していることを、身をもって感じてきました。この課題に向き合いたいという想いから、弊団体の設立当初より活動に関わり、共に悩み、考え、少しずつ形にしていく過程を歩んできました。

活動の認知も少しずつ広がり、当事者や関係者の声が社会に届き始めている実感があります。だからこそ、こうした活動を一過性のものにせず、持続的に育てていくことが、私の大切な使命だと感じています。

今年度は、以下のような展望を掲げています。
まず、メンタリング事業では、対象となる高校生の数をさらに拡大するとともに、その効果の検証を行うことで、より意義ある支援を届けたいと考えています。政策提言においては、現場の声や調査データをもとに説得力のある提案を行い、他団体とも連携しながら取り組みを進めてまいります。また、進路選択におけるジェンダーギャップ解消のために、学校現場や教職員への働きかけを強化し、自治体とも連携しながら教育現場へのアプローチを深めていきます。加えて、団体の活動を持続・発展させていくために、資金調達の基盤づくりやメンバー育成にも力を注いでまいります。
現在、課題に共感し共に行動しようとするメンバーも続々と加わっていますし、温かく応援してくださる支援者の方の輪も少しずつ広がっております。これからも、多くの方と手を取り合いながら、着実に、そして前向きに進んでいきたいと思います。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

Co-Founder　川崎莉音

2021 年秋にこの団体を創業してから、3 年半がたとうとしています。この段階で、# YourChoiceProject は新しいステージへと進みます。思えば 2023 年度までは、一切後ろを振り返ることなく無我夢中に歩み続けてきた 2 年間でした。自らが経験した課題のてざわりだけをもとに暗中模索を積み重ねていた創業初期、調査という強力なツールを手に入れ、それを元にメンタリング事業や政策提言事業に踏み出した 2023 年。

2024 年は初めて、何かを始めるだけでなく、「始めた事業を前に進める」ことがテーマとなった年でした。自分たちの事業が本質的な課題解決につながっているか問い続け、基礎となる調査もさらに強化しました。7 月に公開したレポートは、52 県人寮のおよそ 6 割が男子学生専用寮で占められている現状を可視化し、大きな反響を呼びました。現在はこの調査をもとに女子学生の安価で安全な住まいの選択肢拡大を進めるべく、提言活動を行っています。 8 月には団体初の書籍を出版しました。2023 年度の調査を定性インタビューで肉付けしたこの書籍は、多くの人の手元に届き、共感のお声を数多くいただきました。また「保護者」の問題に正面から向き合うため、保護者向けのアンケート調査をもとにした教職員向けのアプローチが始まりました。 2 月には今まで随所に点在していた「大学進学とジェンダーギャップ」をめぐるデータを一箇所に集めるべく、「大学進学におけるジェンダーギャップ白書」を公開しました。この白書は、開発中の教職員向けコンテンツの教材としても活用されています。

「本質的な課題とは何か」「どういう方法を取るべきか」を深く考えたこの 1 年を経て、2025 年からは、さらなる事業拡大へと踏み出します。「地方女子学生一人ひとりと向き合うミクロな視点と、課題を生み出す構造を捉えるマクロな視点を両立する」信念は変わりません。経営体制を刷新し、新しい歩みを進める # YourChoiceProject を、引き続き応援いただけますと嬉しいです。

Co-Founder　江森百花

2024 年は #YourChoiceProject にとって、大きな飛躍の年となりました。 3 月には、東京大学総長賞を団体として受賞し、広く社会に活動が周知されると同時に、多くの賛同とご協力をいただいた一年だったと感じております。

８月には、代表二名による共著『なぜ地方女子は東大を目指さないのか』を出版し、多くの共感と反響をいただきました。本の執筆は決して簡単な作業ではありませんでしたが、昨年度ご好評いただいた調査結果に加え、#YCP が考えてきたこと、立ち向かってきた逆風、地方女子学生へのメッセージ、そして社会への提言を一冊にまとめ、形として残せたことに大きな達成感を覚えています。まさに、2022 年の活動開始から現在まで、#YCP の歩みが詰まった一冊となりました。ぜひお手に取っていただければ幸いです。

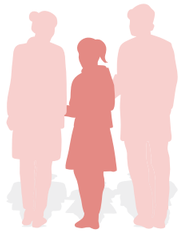
2025 年 3 月には、メンタリングコミュニティ #MCP の第 1 期生が卒業を迎えました。卒業生 21 名のうち、 4 名が東京大学に、 9 名が早慶に進学し、「浪人」という選択をした学生も多くいました。地方女子にとっては挑戦的な選択を、強い意志をもって実行した彼女たちの姿勢は、#MCP の大学生メンターをはじめ、関わってくださった社会人の皆様、そしてご支援いただいた寄付者の皆様の後押しがあってこそだと感じています。心より感謝申し上げます。

2025 年 4 月より、私は学生から社会人となり、代表の職を退くこととなりました。今後は Co-Founder として、#YCP の進むべき方向や戦略の策定に引き続き関わってまいります。今後とも変わらぬご支援とご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

子供の進学先選び、保護者の視点に男女差

保護者5700名へのアンケート調査の結果

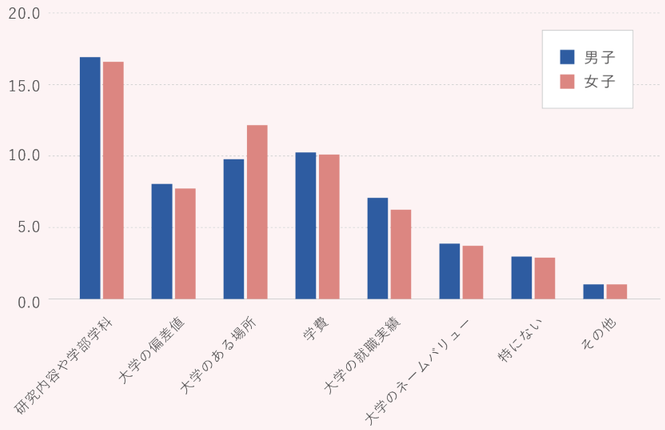
私たちは、株式会社ベネッセコーポレーションと共同で、全国の中学生～高校生の保護者を対象として、子どもたちの進路選択（主に大学受験）における障壁がどこにあるのかを明らかにするための調査を行いました。



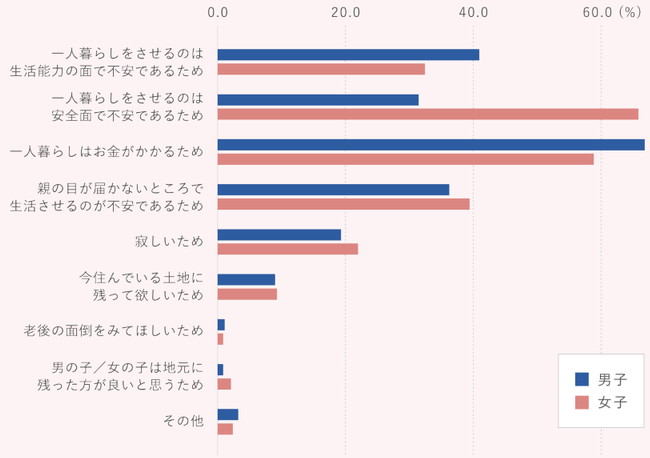
調査対象	中学生～高校生のお子さまをお持ちの保護者の方
調査期間	2024年9月16日～9月23日
調査主体	株式会社ベネッセコーポレーションとNPO法人 #YourChoiceProjectによる共同調査
調査方法	インターネットによる任意回答
有効回答数	5,739名

1 保護者が子どもの大学を選ぶときに重視するポイント

大学選びについて、最も重視されるのは「研究内容や学部学科」でしたが、女子学生の保護者は「場所」、男子学生の保護者は「就職実績」を重視する傾向が明らかになりました。女子学生の保護者については、第一弾調査レポート*で明らかになった「女子学生の方が地元に残って欲しいと思われていること」等と関連していると思われます。



*【子どもへの進学期待に男女差・地域差】保護者1800人へのアンケート調査、NPO法人 #YourChoiceProject
https://note.com/yourchoice_ycp/n/n8fd01113c75a

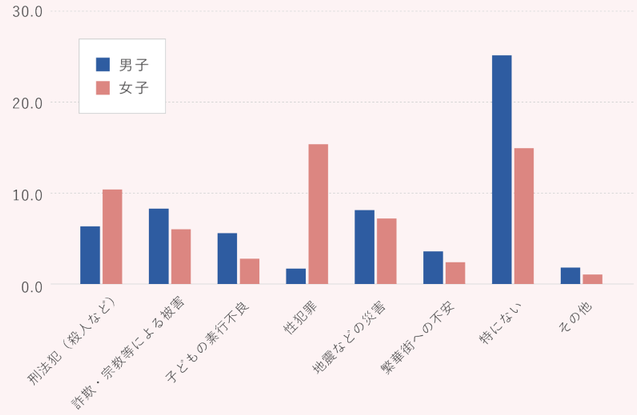


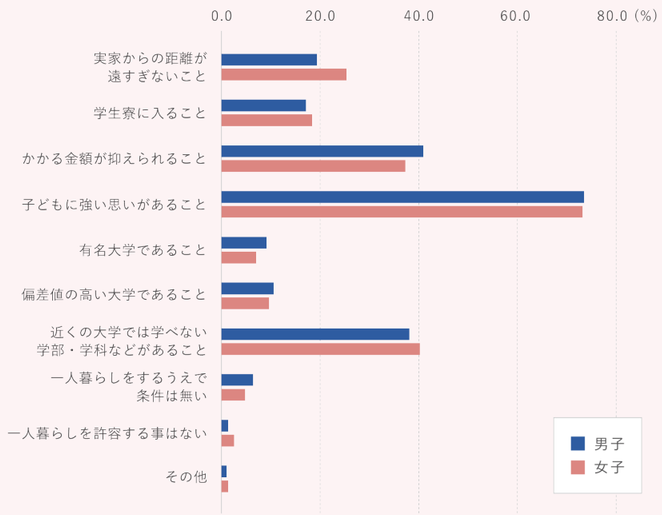
2 大学進学時に地元（親元）に残って欲しい理由

大学進学時に地元に残って欲しい理由は「金銭面」であり、女子学生の保護者は特に「安全面」を不安視する傾向にあることが分かりました。

3 一人暮らしをさせる時、安全面で特に不安に思うこと

さらに、「安全面の不安」について、女子学生の保護者は性犯罪や刑法犯、男子学生の保護者は詐欺や災害を不安視する傾向にあることが明らかになりました。



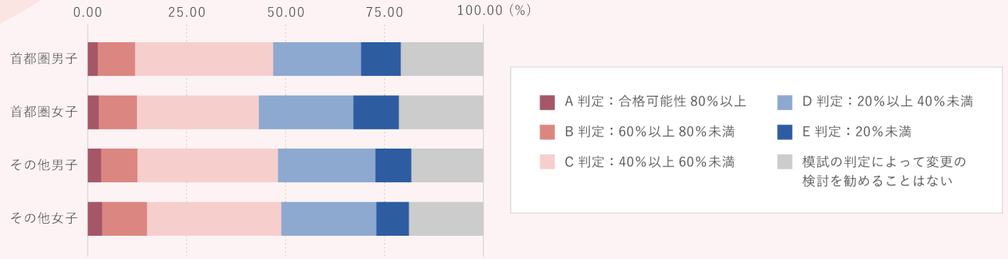


4 子どもが一人暮らしの必要な大学に進学を希望した場合の条件

また、一人暮らしをさせる場合の条件としては、女子学生の保護者の方が実家からの距離を重視する傾向にあります。自由回答では、何かあった時に駆けつけられる距離にあってほしい、という回答が多く見られました。

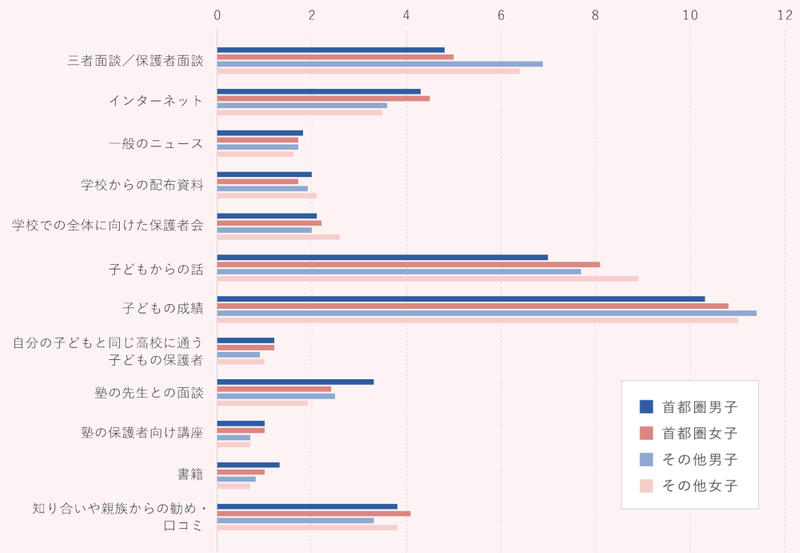
5 模試の判定が何以下であれば、志望校の変更を検討するよう子どもに勧めるか

模試の判定に関して、首都圏の女子学生の保護者よりも地方の女子学生の保護者の方が、比較的高い判定でも志望校を変更するようすすめやすい傾向があることが分かりました。



6 今までの子どもの進路に関して、影響を与えた・与えているもの、意見を変えるきっかけとなったもの

進路選択で保護者に影響を与えるものとしては、「子どもからの話」「子どもの成績」の割合が高く、特に地方では学校からの情報、首都圏ではインターネットを重視する割合が高いことがわかりました。学校からの情報が地方では首都圏と比べ相対的に大きいことからもわかるように、学校の環境を変えることが地方における進路選択上のジェンダーギャップの改善につながる可能性があります。



今回の調査結果によって、**子どもの大学選びにおける保護者の視点には、子どもの性別や地域による違いが見られる**ことが明らかになりました。特に女子学生は、近くに残ってほしいという保護者の思いが声かけや態度によって本人に伝わると、進路の選択肢を狭めてしまう可能性が考えられます。また、地方では学校からの情報を参考にする保護者の割合が高いため、保護者だけでなく学校教員の声かけなども学生の進路選択に影響する可能性があります。これらの調査結果からは、保護者や教員へ働きかける必要性も見えてきました。

数字で見る #YourChoiceProject

組織基盤	ご支援	SNS フォロワー数		
団体メンバー	月額寄付者	Instagram	X	オープンチャット
30名	18名	559	1,582	108

※いずれも 4月20日現在

イベント	寄付者イベント ×2、キャリア講座 ×6、Summer 1Day Program など
成果	forbesJapan6 月号の NEXT100 への選出、進研ゼミとの共同調査、書籍「なぜ地方女子は東大を目指さないのか」出版、大学進学におけるジェンダーギャップ白書、県人寮への女子学生受け入れに関する実態調査レポート、保護者の進学意識に関するベネッセとの共同調査、上野千鶴子基金 など
メディア露出	15（NHK、朝日新聞、文春オンラインなど）

メンタリングコミュニティ #MyChoiceProject

メンター数	メンティー数	合格実績
21名	72名	東大 4、早慶 4、広島大 1、千葉大 1、九州大 1、明治大 1

メンティーの声

自分の勉強の進捗状況を振り返り、計画を修正していくきっかけとなり、目標に向けた勉強を効率的に行うことが出来たと思う。また、勉強法や入試のことだけでなく、大学生活のことについて聞くことができ、モチベーション維持に繋がった。

自分だけでは分からない勉強法を知れた。そして勉強法が分からない時、聞ける環境があるのがとても有り難いし、心強かった。

#YourChoiceProject とは？

#YourChoiceProject

About Us

私たちは、全ての学生が生まれついた地域やジェンダーに関わらず自由な進学・キャリア選択ができる社会を目指して、地方の女子高生の抱える進路選択上のジェンダーギャップの解消に努めています。「志望校は諦めて地元に……」そんな地方の女子高生のために、2021 年から活動しています。

Vision　全ての学生が生まれついた地域や生まれもったジェンダーに関わらず、自由な進学選択・キャリア選択ができる社会の実現

地方女子を取り巻く社会課題

東京の大学に通うのはお金がかかるから、お兄ちゃんだけであなたは我慢してね。

女の子だから、そこまで大学受験、頑張らなくても良いんじゃない？

理不尽なステレオタイプで、無意識のうちに摘まれている興味関心の芽があります。地方女子学生は、進路選択に際して、首都圏女子学生とも地方男子学生とも異なる、さまざまな課題を抱えています。私たちは、2023 年春に全国約 4000 人の高校生にアンケート調査を行い、実際に地方女子学生が抱えている課題を明らかにしました。

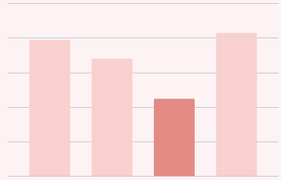
1. 「女子は地元に」のジェンダーステレオタイプと東京への強い忌避感

実家に近い大学に通ってほしいという親の期待は、地方女子は地方男子に比べて有意に高いことが分かっています。「女子は地元に」の固定観念は、いまだに色濃く残存しています。「実家から離れることはできないから」と、志望校を下げる女子学生を、たくさん見てきました。性別が理由で、行きたい大学に行くことができない状況は、決して見過ごすことはできません。

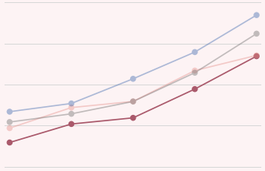
また、「上京することそのもの」に抵抗感を感じている地方女子も多いことが分かっています。**地方女子学生は、「地域」「性別」の二重の壁を目の前に無意識のうちに選択肢を狭められている**と言えるでしょう。

2. 地方女子学生は、偏差値の高い大学への進学にメリットを感じていない

「偏差値の高い大学に行くことは自分の目指す将来にとって有利だと思うか」という質問に対して、首都圏女子と首都圏男子には回答に差がなかったのに対し、地方女子と地方男子には回答に顕著な差が見られました。ここから、**地方では女子学生が性別が理由で、東京大学などの偏差値が高い大学へ行くことそのものにメリットを感じていない**ことが分かります。



3. 地方女子学生は自己評価が低い



偏差値などの客観的な指標から、同程度の学力を有しているにもかかわらず、地方女子は首都圏女子・地方男子に比べ自己評価が低いことが分かりました。つまり、**学力が同程度である場合でも、地方の女子学生は他の属性に比べ、自分の東大合格可能性について自信が低い**ということが言えます。

日本の高等教育におけるジェンダーギャップは深刻だと言えるでしょう。そもそもの大学進学率も長らく女子は男子より低いままですが、難関大に注目すると、学部生に占める女性の割合は東大・京大ともに 20%程度、理系のみの東京工業大学に至っては 13%です。その中でも、地方女子学生は地方特有の情報・意識格差という更なる壁に直面しなければなりません。

教育は将来の政治・経済の土台です。政治家や企業の管理職に難関大学出身者が多いなか、難関大学において地方女子が少ないままでは、ジェンダー格差や地域格差に理解の少ない社会の継続を許してしまいます。しかしながら、当事者以外の共感を得ることが難しいという側面もあり、地方女子学生特有の進学選択上の課題に取り組んでいる団体は他にありませんでした。社会課題としての認知も希薄なため、私たちはパイオニアとして社会に変革を起こしていきたいという思いで活動をはじめました。

Mission 1
地方女子の進学の選択肢を広げる

- 地方の女子学生ひとりひとりに長期的にロールモデルを提示し、女子学生が、当てはめられたステレオタイプから脱却することをサポートします。
- 様々なキャリアの提示を通して、地方女子学生の職業選択の幅を広げます。

Mission 2
地方女子を取り巻く課題を社会化し、環境を変える

- 地方女子を取り巻く課題に取り組むパイオニアとして、社会全体でこの課題に取り組み、変革していく土壌を作ります。
  - 根本的な原因となるステレオタイプの解消
  - 資源や制度の不均衡の是正

これらの分野全てにアプローチすることで、私たちのミッションを実現していきます。政治・経済の土台となる教育分野で変革を起こすことで、私たちは単なる学生団体の域を出て、社会全体にインパクトを与えられるよう活動していきます。

TOPICS in 2024

2024 年度の実績報告

Topic 01

2024.07

note 開設

『なぜ理系に進む女子が少ないのか？』『「東大の推薦」ってなに？』『目白台インターナショナルビレッジ徹底レポ！』など、保護者やジェンダー問題に興味がある方はもちろん、地方女子当事者にまでも直接届くような記事を目指し、ライター部署を中心に精力的に記事投稿を続けています。

Topic 02

2024.07

県人寮への女子学生受入に関するレポート発表

首都圏に県人寮を設置する 35 自治体のうち、およそ半数が男子学生専用の寮しか設置しておらず、52 県人寮のおよそ 6 割が男子学生専用寮で占められています。当団体は男子学生専用寮しか持たない 17 自治体・24 舎に対してアンケート調査を行い、女子学生受け入れに関する議論の進捗状況や受け入れのハードルを明らかにしました。

Topic 03

2024.08

書籍『なぜ地方女子は東大を目指さないのか』を出版

他属性の学生と比べた地方女子の進学意識の差や浪人回避傾向などを明らかにした昨年度調査を下敷きに、ロールモデルの不在が及ぼす影響についての考察や、実際に周囲の環境によって進学選択肢が狭められた地方女子のインタビューなども加えた、#YourChoiceProject 初の書籍を出版しました。

Topic 04

2024.08

#MyChoiceProject 東京で対面イベント開催

地方女子学生へのメンタリングコミュニティ #MyChioiceProject にて、東京での体験型プログラム「Summer 1Day Program」を初めて開催。東大キャンパスツアー、サイバーエージェント社オフィスツアー、社会人座談会の 3 部構成で、地方女子高校生に将来の進路を考える機会を提供しました。

Topic 05

2024.11

産学連携シンポジウム開催

「世界と比較した、日本の大学の女子学生比率の低さ」を大きなテーマとし、各界から産学両面の有識者を招致して今後の日本のダイバーシティ問題について提言をいただくシンポジウムを主催しました。

Topic 06

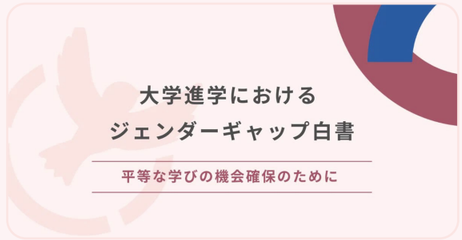
2024.11, 2025.02

保護者の進学意識のジェンダーギャップに関する調査を実施

株式会社ベネッセコーポレーションと共同で、全国の中学生～大学生の保護者を対象とした大規模調査を実施。「保護者の進学期待に、子どもの性別によってどのような違いが存在するのか」を明らかにする調査を行いました。

【子供の進学先選び、保護者の視点に男女差】
保護者5700名へのアンケート調査

株式会社ベネッセコーポレーション/
特定非営利活動法人ハッシュタグYourChoiceProject 共同調査



Topic 07

2025.02

ジェンダーギャップ白書を発表

教育上のジェンダーギャップについての包括的説明を試みた白書を作成しました。教育現場の現状についてまとめた上で、様々なジェンダーギャップの発生要因について、社会や家庭、学校などの幅広い場面を想定しながら考察しました。

部署別活動報告

このページでは、#YourChoiceProject 内の各部署の皆さんに、１年間の活動内容のまとめ、特に注力した事柄、次年度の抱負について語ってもらいます。

メンタリング

活動内容のまとめ

メンタリング戦略チームでは、SNS や高校へのチラシ配布、さらに一部高校での講演会の開催を通じて、新規参加者（２期生）へのリーチアウトを行いました。メンタリング運営チームでは、高校生と大学生のマッチングやメンタリングの進行管理に加え、キャリア講座や各種イベントの企画・運営を担いました。

今年度活動で特に注力した事柄

１期生は東大志望が多かったものの、メンタリングの目的と照らすと東大志望でない人こそ参加してほしいため、東大色を出さずに広報をした結果、志望校がより多様になりました。合計で昨年の２倍以上の約 90 名の応募を獲得し、管理の体制も整え、夏にサイバーエージェントでのツアーを行うなど新たな取り組みにも挑戦しました。

次年度活動の抱負

現在、メンタリングが対象とする 43 道府県のうち、38 道府県から応募が来ていますが、すべての県からより多くの、自分の可能性を過小評価しているターゲットにリーチしたいです。具体的には、春と秋で合計 100 人の受け入れを目指します。また、メンタリングを高校生の進路を最大化できる設計にし、その効果検証も適切に行いたいです。

ライター

活動内容のまとめ

ライターチームは、寄付者の方の獲得、団体の社会的認知度向上、当事者のエンパワーメントを目的とし、４月頃からチームとして本格的に始動しました。認知拡大のため、７月にはこれまで公式ホームページ上のみで行っていた記事投稿を note 上でも始めました。現在、50 本以上の記事を note に投稿しており、累計ビュー数は 40,000 越えとなりました。

今年度活動で特に注力した事柄

ビュー数やいいね数を伸ばすため、読み応えのある記事を継続して週に１本お届けできるよう注力しました。現状では「女子枠の是非」や「理系の女子比率」、「東大推薦」といったテーマの記事が人気になっています。また、団体の調査結果やイベントレポートの記事を出すなど、団体の活動を社会に発信できるよう努めました。

次年度活動の抱負

今年度も引き続き、週１投稿を継続していきます。社会的な課題の周知を高めると同時に、地方女子学生が必要としている情報を１つずつ note 上にあげていければと考えております。また、記事を通して団体の活動に共感し、寄付者やメンバー、メンターになってくれる方を獲得したいです。

コンテンツ作成

活動内容のまとめ

2024 年度は、株式会社ベネッセコーポレーションと共同で保護者を対象とした進路意識調査を行ってきました。そこでは、子どもの性別による保護者の進路意識の違いが明らかとなりました。保護者の持つこうした進路に関わるジェンダーステレオタイプ・ジェンダーバイアスを軽減することで子どもがジェンダーによって進路の幅を狭められてしまうことを防ぐことが重要であると、改めて気付かされました。

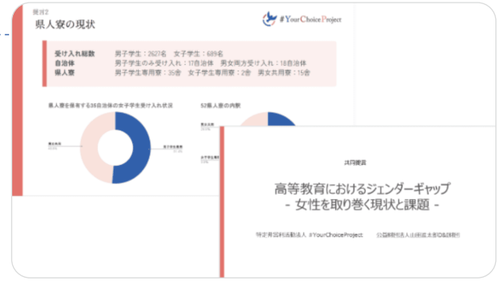
今年度活動で特に注力した事柄

今年度は主として、保護者を対象とした進路意識調査を進めてまいりましたが、調査を行うにあたっては、これまでにわかった子どもが持っている進路意識と同様のものが保護者にもあるのか、なんとなく存在すると思われていた保護者の持つ進路に関するジェンダーギャップが本当に存在しているのか、といったことが明らかになるよう質問内容を考え、実際にそれらを明らかにすることができました。

次年度活動の抱負

2024 年度に実施した保護者対象の進路意識調査では、特に地方に住む保護者にとって、学校から提供される情報が進路意識に影響を与えやすいことがわかりました。その事も踏まえ、2025 年度は、学校の先生向けコンテンツの作成を進め、学校を通じて保護者や生徒の進路に関するジェンダーバイアス等の軽減を目指していく予定です。

政策提言



活動内容のまとめ

提言チームは、県人寮の受け入れ実態を解明することと、我々の課題観を共有し同じ問題意識を持つ人々の輪を広げていくという目標を軸に活動しました。昨年度に続き議員・官僚の方へ地道な提言を行ったり、県人寮の調査発表や他法人との共同提言を行ったりと、活動の幅を広げた一年でした。

今年度活動で特に注力した事柄

提言内容のブラッシュアップに力を入れました。2024 年度までに行った調査事業により県人寮や進路選択の傾向などについての実態が明らかになってきたので、それを踏まえていかに説得力のある提言を作っていくか、日々考え続けていました。

次年度活動の抱負

提言の実現に向けて一層活発に動いていきます。2024 年度までに考えた提言内容をさらに様々な視点から問い直しより深みを持たせると同時に、まだないデータに関する調査や提言活動を進めていきます。

PR

活動内容のまとめ

調査事業や書籍出版、白書の発表など、団体の活動の成果を余すことなく支援者の皆様と社会に知っていただけるよう、X、Instagram、HP、オープンチャットといった媒体で活動内容の広報を続けました。また HP に政策提言や調査事業の内容ページを新設するなど活動の透明性の向上にも努めました。

今年度活動で特に注力した事柄

大規模調査や書籍出版など、目玉となる活動実績の多い年だったので、一目でその成果がわかるような広報のためにどうすれば良いかチーム内でのコミュニケーションを基に慎重に検討しました。また、既に団体の活動を追ってくださっている方とまだ団体について知らない潜在的な支持層との両面に訴えかける意識を持ち続けました。

次年度活動の抱負

トップダウン式の広報だけにとらわれず、部署としての自律性を向上させ、さらにパワーアップしていきたいです。具体的には HP 改築がまだ道半ばであるため、団体全体の紹介ページをさらに詳細で洗練されたデザインのものに変更します。また高校生が直接質問や疑問をぶつけられる場を HP 上に作れたらという願いもあります。

ファンドレイジング

活動内容のまとめ

団体の活動資金を確保するためさまざまな助成金に応募しており、その申請書を書くのが主な活動でした。結果として、現時点でウェスレー財団からの助成が決定しています。年度末には助成金チームと資金調達チームが合併してファンドレイジングチームとなり、寄付者の方とのコミュニケーションを含めた幅広い活動を行うチームとして再結成されました。

#OurChoiceProject 始動！

団体名である
#YourChoiceProject
メンタリング事業である
#MyChoiceProject
に加え、

共に#YCPの活動を支えて下さる月額支援者の皆様を
#OurChoiceProject
にお迎えし、2025年4月より限定メルマガ配信を開始しました

今年度活動で特に注力した事柄

助成金の申請書を書くのも初めは手探り状態からでしたが、募集要項に書いてある助成先の求める条件に合わせた申請書の書き方や、公式ホームページと同じ情報の出し方にして読んでもらいやすくするなどの工夫をするようにしました。また、支援をいただけなかった助成先についても、原因を分析するようにしました。

次年度活動の抱負

2025 年度よりチーム体制を改め、団体が持続的に活動できる資金の確保を目標に活動していきます。今後はこれまで注力していた助成金や企業の皆様からのご支援に留まらず、より多くの人に #YCP の活動に共感いただき、応募したいと思ってもらえるようなコミュニケーション・情報発信に注力していきたいと考えています。

コーポレート

活動内容のまとめ

コーポレートチームは、新メンバーの募集やチーム配属、労働時間の管理などの労務管理を担っています。大学生が中心となる NPO という特性上、継続的なメンバー確保が活動継続の鍵となっています。そのため、大学での新歓活動に加え、ジェンダー論の授業に登壇するなど、学内での認知度向上にも力を入れました。

今年度活動で特に注力した事柄

今年度は、オンラインの定例ミーティングに加えて対面開催のミーティングを増やし、メンバー間のより密なコミュニケーションの促進に努めました。さらに、コーポレートチームと各メンバーとの 1on1 ミーティングを継続的に実施し、不安や悩みを丁寧に汲み取りながら、安心して活動を続けられる環境づくりに取り組みました。

次年度活動の抱負

次年度は、まず Co-Founder の二人から引き継いだ業務を円滑に遂行できるよう、人員体制の安定化に取り組みます。また、メンバーのスキル向上や成長支援にも注力します。具体的には、新メンバー向けの研修プログラムを実施するなど、スムーズに団体活動へ参加できる環境づくりを進めていきます。

2024年度の貸借対照表と収支計算書

科目			金額	小計・合計
【A】資産の部				
	1　流動資産			
				6,338,161
		現金預金	6,157,941	
		棚卸資産	163,720	
		前払費用	16,500	
	流動資産合計			6,338,161
	2　固定資産			
		（1）有形固定資産		
		（2）無形固定資産		
		（3）投資その他の資産		
	固定資産合計			
【A】資産合計				6,338,161
【B－1】負債の部				
	1　流動負債			502,963
		未払金	451,301	
		預り金	51,662	
	流動負債合計			502,963
	2　固定負債			
	固定負債合計			
負債合計				502,963
【B－2】正味財産の部				
		前期繰越正味財産額		6,413,324
		当期正味財産増減額		-578,126
正味財産合計				5,835,198
【B】負債及び正味財産合計　【B－1】＋【B－2】				6,338,161

貸借対照表

科目			金額	小計・合計
【A】経常収益				
	1　受取寄付金			1,307,208
		受取寄付金	1,307,208	
	2　受取助成金等			2,250,000
		受取助成金	2,250,000	
	3　事業収益			52,984
		広告収入	45,000	
		雑収入	7,984	
	4　その他の収益			32,312
		雑収入	32,312	
経常収益計				3,642,504
【B】経常費用				
	1　事業費			
		（1）人件費		660,000
		給料手当	660,000	
		（2）その他経費		2,054,103
		業務委託費	201,646	
		謝金	1,095,441	
		会場費	97,703	
		旅費交通費	248,708	
		交際費	87,682	
		会議費	140,527	
		印刷費	137,587	
		通信費	36,567	
		消耗品費	2,092	
		支払手数料	6,150	
	事業費計			2,714,103
	2　管理費			
		（1）人件費		200,000
		給料手当	200,000	
		（2）その他経費		1,306,527
		地代家賃	34,650	
		業務委託費	595,044	
		謝金	21,500	
		会場費	48,532	
		旅費交通費	3,710	
		交際費	207,426	
		会議費	203,909	
		諸会費	16,400	
		図書費	47,322	
		印刷費	51,855	
		通信費	30,921	
		消耗品費	39,193	
		支払手数料	4,715	
		雑費	1,350	
	管理費計			1,506,527
経常費用計				4,220,630
当期経常増減額　【A】－【B】				-578,126
【C】経常外収益				
経常外収益計				0
【D】経常外費用				
経常外費用計				0
当期経常外増減額　【C】－【D】				0
税引前当期正味財産増減額				-578,126
		法人税、住民税及び事業税		
		前期繰越正味財産額		6,413,324
次期繰越正味財産額				5,835,198

収支計算書